

2023年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2023年2月10日

上場会社名 株式会社 北川鉄工所 上場取引所 東
 コード番号 6317 URL https://www.kiw.co.jp/
 代表者 (役職名)代表取締役会長兼社長執行役員 (氏名)北川 祐治
 問合せ先責任者 (役職名)取締役上席執行役員 (氏名)門田 廣夫 (TEL)0847(45)4560
 経営管理本部 経理部長
 四半期報告書提出予定日 2023年2月10日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第3四半期の連結業績(2022年4月1日~2022年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第3四半期	42,273	2.8	△380	—	253	△84.7	△367	—
2022年3月期第3四半期	41,114	22.7	1,111	—	1,654	—	924	—

(注) 包括利益 2023年3月期第3四半期 2,073百万円(53.0%) 2022年3月期第3四半期 1,355百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第3四半期	△39.68	—
2022年3月期第3四半期	98.74	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第3四半期	74,991	38,115	50.1
2022年3月期	73,311	36,735	49.6

(参考) 自己資本 2023年3月期第3四半期 37,572百万円 2022年3月期 36,326百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	25.00	—	25.00	50.00
2023年3月期	—	30.00	—	—	—
2023年3月期(予想)	—	—	—	0.00	30.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日~2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	58,400	△0.5	△400	—	400	△86.9	△500	—	△53.97

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無

(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2023年3月期3Q	9,650,803株	2022年3月期	9,650,803株
2023年3月期3Q	418,862株	2022年3月期	289,782株
2023年3月期3Q	9,264,468株	2022年3月期3Q	9,361,623株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間(2022年4月1日～2022年12月31日)における世界経済は、中国のロックダウンによるサプライチェーンの混乱やウクライナ情勢の長期化、世界的な金融引締めなどにより、不安定な状況で推移しました。また、国内においても、新型コロナウイルス感染症による行動制限が緩和され経済活動が正常化に向けて少しずつ活発になっているものの、不安定な世界情勢や急激な円安に加え、原材料やエネルギー価格の高騰など厳しい状況で推移しました。

このような経営環境下において、当社グループは長期経営計画「Plus Decade 2031」で掲げる世界基準の成長をめざし、事業構造の転換、経営品質の進化、人材育成などの施策を推進してまいりました。しかしながら、当社グループの業績は、原材料およびエネルギー価格の高騰に対して売価への転嫁を推し進めたものの十分に転嫁することができず、一段と進行した原材料およびエネルギー価格の高騰、自動車メーカーの生産調整による受注量の減少などの影響を強く受けました。

その結果、当第3四半期連結累計期間の売上高はグループ全体で、42,273百万円(前年同四半期比2.8%増)、営業損失は、380百万円(前年同四半期営業利益1,111百万円)、経常利益は、253百万円(前年同四半期比84.7%減)、親会社株主に帰属する四半期純損失は、367百万円(前年同四半期親会社株主に帰属する四半期純利益924百万円)となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

キタガワ マテリアル テクノロジー カンパニー (金属素形材事業)

自動車業界は、中国の購入促進政策の実施により中国市場を中心に世界の自動車販売台数は回復傾向にありますが、依然として半導体を含む自動車部品の供給不足や資材調達の難航等の問題により自動車メーカーが生産調整を実施するなど先行き不透明な状態です。一方で、農業機械・建設機械業界は、北米の金利上昇等による市場の下振れリスクはありますが、好調を維持しました。

このような状況のもと、当カンパニーは、高騰した原材料及びエネルギー価格の製品への転嫁、生産性改善による競争力の強化、商品戦略の見直しによる収益性の向上、脱炭素社会への移行を想定した新規顧客の開拓及び新規部品の受注に努めました。また、メキシコ子会社では、新規受注の自動車部品の生産準備が完了し量産を開始しました。タイ子会社では、生産効率を高めるため、一部の生産ラインの操業を停止いたしました。

これらの取り組みを進めてまいりましたが、半導体不足や中国のロックダウンによる自動車メーカーの生産調整により一定の生産量を確保することができず、固定費の負担が増加しました。また、高騰した原材料およびエネルギー価格を十分に売価に転嫁することができず、営業利益は前年同四半期比で大きく減少しました。

その結果、当カンパニーの売上高は、19,496百万円(前年同四半期比1.4%減)、セグメント損失(営業損失)は、1,713百万円(前年同四半期セグメント損失(営業損失)268百万円)となりました。

キタガワ サン テック カンパニー (産業機械事業)

国内の建設業界は、公共工事は防災・減災、国土強靱化計画を背景に底堅く推移しており、民間設備投資につきましても、資材調達の難航等の影響はあるものの、都市部での再開発事業やマンション建設計画の増加など設備投資意欲が旺盛であり回復基調で推移しました。

このような状況のもと、コンクリートプラント事業では、顧客との関係強化によるシェア拡大に努めました。荷役機械事業では、遠隔操作及び自動運転システムなどの新商品開発を推進しました。自走式立体駐車場事業では、スーパーロングスパンタイプ立体駐車場の市場認知度の向上を目指し積極的な営業展開を図りました。

その結果、コンクリートプラント事業及び立体駐車場事業の売上高が前年同四半期比で増加し、当カンパニーの売上高は15,291百万円(前年同四半期比10.9%増)となりましたが、資材価格の高騰の影響が大きくセグメント利益(営業利益)は、1,016百万円(前年同四半期比24.6%減)となりました。

キタガワ グローバル ハンド カンパニー (工作機器事業)

工作機械業界は、全体的な市況としては新型コロナウイルス感染症の流行前の水準まで回復しました。内需につきましては、自動車製造向けの設備投資は停滞感があるものの、製造業全体としては補助金効果もあり堅調に推移しまし

た。また外需につきましても、中国のロックダウンやゼロコロナ政策、ウクライナ情勢、世界的な金融引締め等の下振れリスクがありましたが、好調な工作機械業界に支えられ堅調に推移しました。

このような状況のもと、当カンパニーは、産業用ロボット周辺機器市場での事業化推進、新たな生産体制の構築による生産性の改善、原価改善による収益性の強化に努めました。

その結果、海外向けの販売減少の影響を強く受け当カンパニーの売上高は、7,250百万円（前年同四半期比 0.4%減）となりましたが、原価改善などによりセグメント利益（営業利益）は、890百万円（前年同四半期比 7.7%増）となりました。

（2）財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、固定資産の増加などにより、前連結会計年度末に比べて1,679百万円増加し、74,991百万円となりました。

負債は、その他流動負債に含まれている契約負債の増加などにより、前連結会計年度末に比べて299百万円増加し、36,875百万円となりました。

純資産は、為替換算調整勘定の増加等により前連結会計年度末に比べて1,380百万円増加し、38,115百万円となりました。純資産から非支配株主持分を差し引いた自己資本は37,572百万円となり、自己資本比率は50.1%となりました。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の連結業績予想につきましては、直近の業績動向を踏まえ、2022年11月11日に公表しました業績予想の内容を修正しております。

詳細につきましては、本日（2023年2月10日）公表の「2023年3月期通期連結業績予想の修正及び期末配当予想（無配）の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

業績予想に関する記述は、現時点で入手可能な情報に基づいております。業績は、今後の様々な要因により見通しと異なることがあります。その要因のうち、主なものは以下のとおりであります。

- ・当社の事業領域を取り巻く経済環境・需要動向等の変化
- ・原材料価格及び電力等のエネルギー価格の変動
- ・自動車メーカー各社の半導体等の供給不足による生産調整
- ・為替相場（主として日本円、米ドル、泰バーツ、墨ペソ）

ただし、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	8,852	7,689
受取手形、売掛金及び契約資産	11,959	9,899
電子記録債権	7,446	7,365
商品及び製品	4,372	4,741
仕掛品	4,560	5,750
原材料及び貯蔵品	2,644	3,130
その他	755	1,258
貸倒引当金	△18	△16
流動資産合計	40,573	39,819
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	6,154	6,823
機械装置及び運搬具（純額）	10,620	12,743
その他（純額）	7,833	6,781
有形固定資産合計	24,608	26,349
無形固定資産	606	588
投資その他の資産	7,523	8,234
固定資産合計	32,738	35,172
資産合計	73,311	74,991

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	5,394	5,158
電子記録債務	6,420	6,498
短期借入金	2,867	3,744
1年内返済予定の長期借入金	1,249	1,084
未払法人税等	808	43
賞与引当金	684	225
製品保証引当金	115	72
その他	4,508	5,445
流動負債合計	22,048	22,272
固定負債		
長期借入金	9,116	8,678
環境対策引当金	44	43
退職給付に係る負債	4,998	5,182
その他	367	698
固定負債合計	14,528	14,603
負債合計	36,576	36,875
純資産の部		
株主資本		
資本金	8,640	8,640
資本剰余金	5,091	5,084
利益剰余金	21,032	20,154
自己株式	△617	△793
株主資本合計	34,146	33,085
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,240	1,443
為替換算調整勘定	1,099	3,117
退職給付に係る調整累計額	△160	△73
その他の包括利益累計額合計	2,179	4,486
非支配株主持分	408	543
純資産合計	36,735	38,115
負債純資産合計	73,311	74,991

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年12月31日)
売上高	41,114	42,273
売上原価	35,528	37,893
売上総利益	5,586	4,379
販売費及び一般管理費	4,475	4,759
営業利益又は営業損失(△)	1,111	△380
営業外収益		
受取利息	16	39
受取配当金	78	111
持分法による投資利益	91	202
為替差益	—	114
スクラップ売却益	248	150
助成金収入	10	—
受取設備負担金	77	—
その他	131	133
営業外収益合計	654	751
営業外費用		
支払利息	62	115
為替差損	25	—
その他	23	2
営業外費用合計	111	117
経常利益	1,654	253
特別利益		
固定資産売却益	—	98
投資有価証券売却益	44	—
特別利益合計	44	98
特別損失		
固定資産売却損	—	20
固定資産除却損	60	172
製品保証引当金繰入額	38	16
事業構造改革費用	—	241
特別損失合計	98	450
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	1,601	△97
法人税、住民税及び事業税	555	154
法人税等調整額	229	267
法人税等合計	785	422
四半期純利益又は四半期純損失(△)	815	△519
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△108	△152
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	924	△367

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	815	△519
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△65	202
繰延ヘッジ損益	△3	—
為替換算調整勘定	484	2,232
退職給付に係る調整額	112	89
持分法適用会社に対する持分相当額	10	68
その他の包括利益合計	539	2,593
四半期包括利益	1,355	2,073
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,312	1,939
非支配株主に係る四半期包括利益	42	134

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				計	その他 (注)	合計
	キタガワ マテリアル テクノロジー カンパニー	キタガワ サン テック カンパニー	キタガワ グローバル ハンド カンパニー				
売上高							
外部顧客への売上高	19,769	13,792	7,277	40,839	275	41,114	
セグメント間の内部 売上高又は振替高	167	0	6	174	7	181	
計	19,937	13,792	7,284	41,014	282	41,296	
セグメント利益又は損失 (△)	△268	1,348	826	1,907	△205	1,701	

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、特機事業を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	1,907
「その他」の区分の損失(△)	△205
全社費用(注)	△589
四半期連結損益計算書の営業利益	1,111

(注) 主に提出会社の管理部門に係る費用及び各セグメント共通の費用で便益の程度が直接把握できない費用部分であります。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他 (注)	合計
	キタガワ マテリアル テクノロジー カンパニー	キタガワ サン テック カンパニー	キタガワ グローバル ハンド カンパニー	計		
売上高						
外部顧客への売上高	19,496	15,291	7,250	42,038	235	42,273
セグメント間の内部 売上高又は振替高	128	0	7	135	0	135
計	19,624	15,291	7,258	42,173	235	42,409
セグメント利益又は損失 (△)	△1,713	1,016	890	193	△139	53

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、特機事業を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	193
「その他」の区分の損失(△)	△139
全社費用(注)	△434
四半期連結損益計算書の営業損失(△)	△380

(注) 主に提出会社の管理部門に係る費用及び各セグメント共通の費用で便益の程度が直接把握できない費用部分であります。